

令和7年度 第1回岩見沢市総合戦略等推進委員会 議事録（要旨）

● 日時、出席者等

日時	令和7年11月6日（木）15時30分～17時00分
会場	岩見沢市役所4階 委員会室1・2
出席委員等	委員13名、特別委員2名
傍聴者	0名
事務局等	事務局20名

● 議事録（要旨）

会議次第	協議内容
1 開会	
2 委嘱状交付	
3 市長挨拶	
4 委員紹介	
5 議事 （1）会長の選出について （2）職務代理者の指名について	（1）要綱に基づき事務局一任 （2）要綱に基づき選出
6 協議事項 第3期岩見沢市総合戦略の取組みについて	<p>●第3期岩見沢市総合戦略について、人口動態について 【事務局説明】</p> <p>（委員） 子育て支援施策によって14歳以下のこども世代とその親世代である30代の社会動態が改善傾向となったのであれば、この世代に向けて、子育て環境をPRできるといい。</p> <p>（委員） 戦略事業により社会動態が改善した要因の分析をしているか。 また、転入者が新たに岩見沢で就業しているか、市外に通勤しているかを把握しているか。</p>

(岩見沢市)

様々な施策をバランスよく実施し、市の魅力を高めた結果、社会動態が改善したと考えている。転入者の就業先については、市内外いずれも考えられる。

(特別委員)

市の様々な施策の効果によって、社会減が緩和していると考えられる。この傾向が市独自のものを分析することで、より効果的な施策の検討が可能となる。

●第3期岩見沢市総合戦略の事業評価について

【事務局説明】

(委員)

プレミアム付建設券発行支援事業について、目標値は達成していないが、企業・市民の両者に喜ばれる事業であり、今後も続けてほしい。

(岩見沢市)

基準値が、雪害の影響で例年よりも多く発行した際の数字としているため、実績値は低く見えるが、経済波及効果は低くないと考えている。基準値及び目標値の設定は、改めて協議したい。

(委員)

待機児童の数について、基準値と実績が0であるが、保育所に入所できず復職できない例もある。希望する保育所に空きがない状況と思うが、保育所ごとの待機児童数も把握しているのか。

(岩見沢市)

待機児童の数は、毎年4月1日時点の数字としている。年度途中の入所については、希望する園に空きがない状況もあり、空きを待ってもらうか、別の園の紹介となり、その場合は潜在待機となる。

(委員)

観光入込客数について、観光客の属性の違いは把握できるのか。

(岩見沢市)

属性は、把握できないが、観光施設、宿泊施設、公共施設から報告を受けて観光入込客数を把握している。

	<p>(委員) 教育大学連携事業は、どのような流れで実施しているのか。</p> <p>(岩見沢市) 「i-BOX」での学生の活動支援や、芸術文化・スポーツという市の強みを活かしたまちづくりに向けた協議を実施している。</p> <p>(委員) こども家庭センター事業について、実績が基準値から落ち込んでいる中で、目標値を20%上げるためにどのような取組みを考えているか。</p> <p>(岩見沢市) 3歳児健診でアンケートを実施しており、より多くの方に岩見沢で子育てをしたいと答えてもらえるよう施策に取り組んでまいりたい。</p> <p>(委員) 防災対策事業について、自主防災組織率の目標値は、町内会等での組織率が7割ほどになれば良いという考え方なのか。 また、防災情報メールサービス登録者の目標値設定を高めてもいいのではないか。</p> <p>(岩見沢市) 自主防災組織率は、団体の自主防災の取組み率であり、その団体は主に町会である。町会の規模によっては、単独で訓練実施が困難なところもあり、目標値を70%で設定している。 また、防災情報メールサービスは、緊急FMラジオやテレビなどで情報を取られる方もいることから、目標値が低いとは考えていない。</p> <p>(委員) 観光入込客数が目標値より20万人不足しているが、コロナ禍によって入込客数が落ち込んだため、令和9年の目標値が高くなっているのか。また、目標値に近づいていくためのイメージはあるのか。</p> <p>(岩見沢市) コロナ前の令和元年度実績が102万4,000人。コロナ前よりも増やしていく目標で118万人と設定している。今後は、ワインを通じた誘客に繋げていきたい。また、1月に雪を求めて中華圏のインバウンドが大勢見られたことから、SNSを活用したPRにも取り組んでいきたい。</p>
--	--

(委員)

Jリーグの開催時期が、秋冬開催に変わる。気候が熱帯化していく中で、北海道がキャンプ地候補で注目を浴びることが予想されることから、取り込むための施策を考えていくとよい。

(委員)

観光物産振興事業は、市や振興局等と連携して芽を育ててきた。

また、台湾との交流においては、人の交流に加え、物産交流といった経済を伴った形での継続が大切と考えている。

多方面において接点を持つことで交流人口を増やし、人口減少を経済で補い、地域経済活性化や地場産業育成に繋げる。令和9年度目標のハードルが高いとは考えていない。

●国における地方創生の取組みについて

【事務局説明】

(特別委員)

道では、国の地方創生2.0基本構想を踏まえて、総合戦略に暮らしや産業におけるAIデジタルの活用、若者女性に選ばれる環境作りなどの項目を追加し、3月下旬に北海道総合戦略の改定を予定。

(委員)

産科婦人科やこどもが病気になった際の資源が足りない。昔よりも改善しているが、休みが取りにくい職場も多いと感じる。現状に寄り添った子育てのサポートがあれば、子育て世代も住みやすく、住み続けたい市になる。

(委員)

外国人の人口分析やコミュニティのバランス維持には課題がある。今後どのようにコミュニケーションを図るか考えなくてはならない。

(岩見沢市)

外国人の対応について、総合戦略にどのように盛り込んでいくのか検討が必要と考えている。

(委員)

日本語を習いたい人や必要としている人の情報を得て、手助けできないか模索している。市にもぜひパイプ役になっていただきたい。

<p>7 その他</p> <p>8 閉会</p>	<p>(委員)</p> <p>新たな人の流れをつくると、現場では小さな歪みや人との摩擦が起きるため、対応やケアを手厚くし、数値には現れない質や細やかなサポートができるまちになってほしい。</p> <p>また、卒業後に教育大生が市内に就職しない、就職できない実態も把握している。今後、就職という形でも何か切り開いていけるといい。</p> <p>(岩見沢市)</p> <p>人口や地域の担い手が減少する中で、単独の市町でサービスが提供できないことが増えている。本年4月から定住自立圏を作り、住民サービスの質を下げないための取組みを進めている。</p> <p>また、教育大学の学生が市内に就職や定住をしないという現状もあるが、卒業後、定住しなくても、交流人口や関係人口でといった形で岩見沢に関わり続けてくれる学生を4年の間に作りたい。</p> <p>(特別委員)</p> <p>全国的な傾向であるが、岩見沢市も人口減少は避けられない。今後は、関係人口をどう増やすかということが非常に重要な視点である。関係人口について、今後、指標値にすることも検討が必要だと思う。</p> <p>今までとは異なる形で市との関わり方を増やすことを検討してほしい。</p>
--------------------------	--